

## 第1回羽咋市総合教育会議 会議録（要約）

1 日 時 平成 27 年 6 月 19 日（金） 10 時 00 分～10 時 50 分

2 場 所 羽咋市役所 302 会議室

3 出席者 羽咋市長 山辺 芳宣  
教育委員長 井上 克彦  
委員長職務代理者 西村 麗子  
教育委員 前田 美佳  
教育委員 今井 和秀  
教 育 長 北山 吉郎

### （事務局関係）

総務部長兼総務課長	備後 克則
市民福祉部長兼健康福祉課長	松田 孝司
総務課課長補佐	松田 秀治
” 行政係長	木村 繁成
教育次長兼学校教育課長	若狭 義高
学校教育課学務担当課長	濱田 弘一
” 課長補佐	金山 幸富

## 4 協議事項

- (1) 総合教育会議について
- (2) 羽咋市教育大綱について

## 5 会議経過の概要

次のとおり

○市長あいさつ

○協議事項

- (1) 総合教育会議について

資料1に基づき、制度の概要及び今後の会議の進め方等について事務局から説明。

- (2) 羽咋市教育大綱について

資料2に基づき、羽咋市教育大綱（案）について事務局から説明。

## 【出席者からの質疑・意見等】

### < 協議事項について >

- (井上教育委員長) 就学前の子供の状態が、学校教育に大変大きな影響を与えている。保護者の教育に対する多様な考え方や地域社会との結びつきの希薄さなどから、子育てに悩んでいる親御さんも多いと聞く。小学校へあがるまでの子育ての支援、保護者への支援といったものを大綱の中に位置づけていくことは非常に重要ではないかと感じる。
- (西村教育委員長代理) 次世代に向けた子育て支援というのは大切であると思う。少子化問題を考えると、出産する場所がないということが一つのネックになっているのではないか。大きな羽咋病院でも、産科があっても分娩ができない状況であり、その改善が子育て支援にもつながるのではないか。
- (今井教育委員) 就学前の子供たちの教育に目を当てていく必要がある。現在、各小学校で入学予定の保育園児を招いて、模擬授業参観のような取り組みをしているが、非常に有意義であり、こういうものを少しでも計画に盛り込んでいくべきではないか。
- (北山教育長) 青少年の健全育成について、地域社会の支援・協力をいただけるシステムがあれば良いと思う。また、選挙権の年齢引き下げに対する支援も考えていく必要がある。
- (山辺市長) 子育て支援については、幼稚園が認定こども園に移行するなど、制度が大きく変わってきており、そういう点で、今回の大綱の中に盛り込めばどうかと思い提案させていただいた。
- (松田部長) 従来の幼稚園は、すべて認定こども園となり市内には幼稚園はなくなった。名称については従来どおり「幼稚園」となっている。
- (今井教育委員) 羽咋市においては、幼稚園は教育機関という位置づけではなくなったということか。
- (松田部長) 認定こども園の事業の中で、教育を重視した部分と保育を重視した部分に分かれており、それぞれの事業所でどちらの事業も実施されることとなる。

(井上教育委員長) 所管は厚生労働省ということか。文部科学省所管の幼稚園であれば、小中学校のように学習指導要領のようなものがあると思うが、そういうものもなくなったということか。

(松田部長) 認定こども園は、内閣府の所管であり、健康福祉課で事務を行っている。羽咋市内には幼稚園に位置づけられる施設はなくなりましたが、他の自治体では一部幼稚園としての形態を継続するものも存在することから、従来どおりの幼稚園も残ることになる。羽咋市では幼稚園を運営する各事業所の判断で、幼稚園から認定こども園に移行したということである。次回の会議で制度変更に関する資料を提出したい。

(備後部長) 羽咋市教育大綱については、本日までご提案させていただいた内容をもとに、委員からいただいたご意見等を踏まえ、次回の会議までに市のほうで取りまとめさせていただきたい。

< 意見交換 >

(今井教育委員) 先日の学校訪問で、市内の小中学校施設を見る機会があった。羽咋中学校の最新の体育館には感動を覚えた。建築年次によりかなり古い校舎も存在するので、問題のある教育施設については、優先順位を付けて環境の整備・充実を図っていただきたい。

(山辺市長) ようやく、羽咋中、余喜小の耐震化が終了した。これまでに病院や上水道などの施設をはじめ市内公共施設の耐震化に80億程度を投入してきている。ハード面の基礎的な部分については一定の目途が立ったと考えており、今後も健全財政を維持しながら、これまで対応できなかったソフト面にも優先順位を付けて対応していきたいと考えている。

(西村教育委員長代理) 以前、羽松高校で実施されていた「やすらぎ教室」がなくなった。学校へ行けない子が学校へ行けるようになるためのワンステップになっていた。現在も学校に行けない子が存在する実態があり、専門的な担当者を配置したり、居場所を作るなど代替的な措置が必要ではないか。市単独ではなく、近隣自治体も含めた広域的な検討できないか。

- (若狭教育次長) 従来は石川県の事業として専門の先生が配置されていた。平成25年度で終了となったことから、平成26年度からは市の事業として、羽咋公民館の図書室を活用し、「タンポポ教室」として事業形態を変えて実施している。学校を通じて該当する保護者へ案内しているが、現在のところ申込が無い状況。該当者があれば、生涯学習課の指導員や羽咋小の学校支援員などの非常勤職員により対応していく予定。
- (西村教育委員長代理) 利用する子がないのは、専門の先生がないことや会場が適当かどうかなどの問題があり、利用しにくい制度になっているからではないかと思う。
- (井上教育委員長) 学校訪問の際に、小学校一年生の授業を見て、大変落ち着いて授業を受けている印象を受けた。入学間もない時期にもかかわらず、小学生らしい授業が成立している。先生も頑張っておられると思うが、市内で15名配置されている学習支援員の影響が大きいと感じている。きめ細かく指導されていることが学級全体にも良い影響を与えているのだと思う。今後もさらに充実をお願いしたい。
- (山辺市長) 個性の強い子もいるので、増員の必要性については認識している。毎年予算の時期に教育委員会からの要望を受け思案している。県の関係者からは、羽咋の教育レベルを高く評価する声も聞いている。現時点では現状維持に努め、財政的なことも踏まえ、総合的に判断していきたい。

## 6 次回会議開催について

次回会議を8月中に開催することを決定。

## 7 閉会